# 北医療薬会報

発　行　所　北海道石狩郡当別町金沢1757番地
北海道医療大学薬学部同窓会
☎(0133)23-0301　直通・FAX
☎(0133)23-1211　大学代表
発行人　田　中　稔　泰

印　刷　所　㈱正文舎
札幌市白石区菊水２条１丁目４-27
☎(011)811-7151

平成28年度入学式

# 目　　次

第36回　北医療薬　総会および医療薬学セミナーについて …… 3

定年退職される先生をご紹介します …… 3

定年退職される先生からのメッセージ
　黒澤　隆夫 教授　副学長・薬学部教授 …… 4
　唯野　貢司 教授　実務薬学講座（実務薬学教育研究） …… 5

新任教授からのご挨拶
　平野　剛 教授　実務薬学講座（実務薬学教育研究） …… 6

支部だより
　薬学部同窓会　北越支部　支部長　杉本　雅則 さん
　富山支部　藤川　晃 さん …… 7

卒業生からの近況報告
　第30期　薬理学講座（薬理学）　二見　ゆきの さん …… 8

在学生からのメッセージ　薬学部４年　谷口　栄 さん …… 9

第63回　北海道薬学大会で本学同窓生３名が同時受賞 …… 9
　日本薬学会北海道支部第143回例会
　医療薬学貢献賞並びに日本薬学会北海道支部奨励賞

2016年度オープンキャンパスのご案内 …… 11

第８期生卒業30周年記念祝賀会　中村　次也 さん …… 12

北海道医療大学　同窓会☆コラボ講演会　第９弾について …… 13

お知らせ（北医療薬 総会ならびに懇親会のご案内） …… 14

編集後記 …… 14

# 第36回　北医療薬
# 総会および医療薬学セミナーについて

平成27年６月20日（土）に北医療薬 総会および医療薬学セミナーが開催されました。医療薬学セミナーには講師として本学薬学部教授 村井 毅先生（生命物理科学講座・薬品分析化学）を迎え「LC-MS/MS法を用いた薬物分析～胆汁酸の動態解析への応用～」と題し、ご講演を頂きました。LC-MS, LC-MS/MS法の装置や原理等の基礎的な内容の講義の後、それらの技術を応用した病態診断まで、難解な内容をわかりやすくご説明頂きました。先生が最近行われた、実際に肝疾患患者の試料を用いた分析結果から胆汁酸の体内動態解析を行い、胆汁酸代謝酵素異常を診断する方法に関しては、活発な質疑応答も行われました。

講演終了後には懇親会が開催され、村井先生にもご参加頂きました。懇親会でもご挨拶を頂戴し、近年の薬剤師国家試験の傾向についてもお話頂きました。懇親会でも同窓生の近況や活躍の話題など笑顔を交えた活発な意見交換が行われ、大盛況の会となりました。

# 定年退職される先生をご紹介します

平成28年３月をもちまして、黒澤 隆夫教授（副学長・薬学部教授）、唯野 貢司教授 実務薬学（実務薬学教育研究）が定年退職されました。平成28年２月29日に先生方による最終講義が行われ、その後中央講義棟10階ラウンジにて退職記念祝賀会が行われました。北海道医療大学の薬学教育への多大なご貢献に心より感謝致します。

# 定年退職される先生からのメッセージ

## 「本学と歩んで40年」

副学長・薬学部教授　黒　澤　隆　夫 教授

本学は昭和49年４月に薬学部薬学科（定員60名）、衛生薬学科（定員60名）１期生141名を音別の地に迎え、スタートし、多くの学部学科が増設され、昨年度には創立40周年を迎えました。私は、創立２年目の昭和51年４月に東日本学園大学当別キャンパスに赴任以来、本年３月まで40年間薬学部教員として勤めてまいりました。しかしながら、１年間（昭和57.6～58.5）のフランス留学期間中は休職扱いで、正式な勤務年数は39年間ということになります。本学より外国留学した教員の第一号でしたので、留学者のための制度が整っておらず“こんなもんでやろうや”という雰囲気であったかもしれません。ちなみに、現在は、長期出張扱いとなっているようです。

昭和51年３月に北大薬学部の修士課程（薬学研究科植物薬品化学　米光宰教授）を修了して、４月から故藤間真彦教授の主宰する薬学部薬品分析化学講座に助手として赴任しました。第一期生は私と同じ歳頃のうえ、とんでもない猛者がいるとのことでしたから、担当した分析化学実習ではえらい緊張しましたが様々なことを学ぶことができました。教員としての基本的な動きはもとより、学生同士の友人としての絆の強さ、考え方や将来の目標などがはっきり伝わってきて教育の目的を教えてもらいました。開学当初は、本当に教えることより教えてもらうことが多く、毎日が自身の勉強の日であったような気がします。また、当時は研究時間を充分に採ることができ、藤間先生のご指導のもと自由に研究をやることができた期間でもありました。学生の皆さんとは、夏はサマーキャンプ、冬はスキー合宿と本当に充実した時を過ごすことができ、今は懐かしく思い出されます。そんな中、昭和56年に博士号を取得し、後に北大総長を務められた北海道大学の伴義雄先生に紹介をいただいたフランス国立天然物研究所に留学しました。「フランス語も人が話すのだから何とかなるべっ！」と思っていきましたが、何ともならず…研究所に通う傍らパリで語学学校に通う羽目になりました。

留学後、昭和60年 講師、平成４年 助教授に昇任し、助手時代とは異なり、責任ある教育を任され、改めて考えさせられる時期でありました。平成６年には校名変更により、東日本学園大学は北海道医療大学となり、この後十数年は、本学にとって多くの受験生が集まり、新たな発展の時期を迎え、看護福祉学部、心理科学部などが開設されました。特に薬学部は急上昇を続け、一般入学試験だけでも３千名にも及ぶ受験生を集める時代を迎え、現在の本学の置かれた厳しい状況を想像することもできなかった時代でありました。

藤間先生の退任後、平成10年に教授に昇任し、薬品分析化学講座を主宰することとなり、吉村先生（現生命物理科学 薬品物理化学教室 教授）、村井先生（現生命物理科学 薬品分析化学教室 教授）、蕙先生（現北海道大学保健研究院 教授）、馬原先生（元本学人間基礎 准教授）、小林先生（現衛生薬学 衛生化学教室 准教授）、土田先生（現分子生命科学生化学教室 講師）ら薬品分析化学教室のメンバーに助けていただき教育研究を進めることができました。また、同時に教務副部長を務めることになり、平成12年からは教務部長を務め、ほとんどの時間を教育に振り向けることとなり、教室員の先生方には大きな苦労をかけたうえ、私の心臓も苦労したようでサボタージュを起こしてしまいました。丁度、科研費の審査員を務めていたため入院中にもベッドの上で審査をやりながら、「やるしかない」と開き直っておりました。

無事生還後、平成16年４月より薬学部長を仰せつかりましたが、丁度この時期は、平成18年の薬学教育６年制スタートの組織の体制作りをしなければならず、全国的に６年制に向けたコア・カリキュラム、教育の質保障や厳格な定員管理など様々な議論がな

されていたころでした。さらに、本学では歯学部定員調整、新学部設立と連動した薬学部定員増（入学定員150名､編入学定員10名）を実施することになり、当時は、６年制スタート後初の定員増ですから他の薬系大学から随分非難を受けた覚えがあります（ちなみに次の年からは定員増に対しては全く非難が出なくなりました…１年遅れて実施すれば良かったかなと思った）。この時期は、現薬学部長の和田先生をはじめ多くの先生の惜しみない協力があって何とか乗り越えることが出来ました。

平成24年３月に６年制第１期生の卒業を迎え、薬学６年制教育が完成しましたが、その年４月より副学長を仰せつかりました。身分は薬学部教授でもありましたので、講義科目はしばらく担当することとなり薬学部と密接な関係を続けることが何よりの喜びでありました。

本年３月、定年退職を迎え、薬学部教員としての籍を外れ、再び副学長として任命されました。同窓生の皆様には今後ともより一層のご支援をお願いいたしまして、薬学部退任のご挨拶に代えさせて頂きます。今後は、微力ながら、北海道医療大学の目標である「新医療人育成の北の拠点」を目指しつつ、保健・医療・福祉の中核として地域社会の中心で活躍できる医療人の育成に尽くしていきたいと思っております。

## 「病院薬剤師経験（30年間）を薬学教育に活かせたか？」

実務薬学講座・実務薬学教育研究　唯　野　貢　司 教授

私は昭和51年４月から市立札幌病院に薬剤師として入職し30年間勤務した後、薬学６年制教育がスタートした平成18年４月に新たに開設された実務薬学教育研究講座の教授として赴任しました。丁度10年間お世話になりましたが、この３月31日付けで定年退職いたしました。

赴任当時、新米教員として何も分からないのに併せて１年生は６年制課程、在学生（２～４年生）は４年制課程と戸惑いも多い中でのスタートでした。しかし、薬剤学講座から配置換えで来てくれた小林道也助教授（現在：臨床薬剤学教授）の強力な援助によって新設講座がスタートしました。２年目からは４年生６名が講座配属となり、夏休み後には基礎棟２階に研究室・ゼミ室・教員室などが出来上がりました。教員も病院勤務経験者の千葉薫先生、野田久美子先生が着任し、開設４年目には薬局勤務経験者の中山章先生、吉田栄一先生、櫻田渉先生が次々に着任し教育体制が整備されました。また、中央講義棟１階には、４年生の実務実習前実習で使用する臨床実習室が新設され教育面の準備が整いました。研究面では、４年制大学院修士課程に３名ずつ入学し、研究室が賑やかになりました。それに伴い病院での臨地実習や近隣の医療施設との臨床研究が始まるなど、忙しい中にも充実した毎日でした。大学院生が行ったTDM（治療薬物モニタリング）研究の一部は、後に野田久美子助教がその成果を博士論文としてまとめました。また、その他のテーマは現在も薬学総合研究（卒業論文）の中で生かされています。

６年制課程の準備では、まず実技試験（OSCE）への対応については､他大学のトライアルへの参加、模擬患者さんの確保、物品の準備、評価者の研修など色々なことがありましたが、大学の全面的なバックアップによる施設・設備の充実と薬学部教員の全面的な協力による人員の確保などの体制作りを構築することができ、現在に至っています。長期化（計22週間）した実務実習の体制整備については、北海道地区調整機構の下で施設側の全面的な協力が得られ、全道各地の実習施設への挨拶廻り・訪問については、薬学部教員の全面的な協力によって大きなトラブルもなく現在まで順調に推移しています。

また生涯学習に関わらせていただいたことが、貴重な経験となりました。赴任２年目に学内関係者の協力を得て、「生涯学習事業：専門薬剤師養成基礎講座」として感染制御専門薬剤師とがん専門薬剤師の２コースを隔月で計12回開講しました｡本講座は、

薬学部のみならず他学部の教員、学外の先生方に講師をお引き受けいただきました。本講座は、非常に好評でその後も継続開催されることとなりました。平成22年10月、当時の黒澤隆夫薬学部長のご尽力で生涯学習事業などを実施する組織として「薬剤師支援センター」が設置され、私が初代センター長に指名されました。なお、本生涯学習事業は平成23年３月25日付けで薬剤師認定制度認証機構より「生涯研修認定制度認証機関（プロバイダー）認証番号：G14」として認証されました。大学教育における生涯学習の必要性については、平成28年２月４日付で出された医道審議会「薬剤師国家試験のあり方に関する基本方針」の中で「各薬科大学・薬学部において生涯学習や自己研鑽の重要性について十分に教育するとともに、薬剤師の生涯学習の機会が確保されるよう、国、各職能団体及び各薬科大学・薬学部等が、積極的に取り組むことが重要である。」との提言が出されており、本学の取り組みはこれを先取りする形となっています。

私の病院薬剤師経験（30年間）を薬学教育に十分活かせたかどうか甚だ疑問が残りますが、10年間多くの教職員と学生に支えられて充実した日々を過ごすことが出来ました。

薬学部同窓生の皆様が、今後もご健康でそれぞれの立場で益々ご活躍されることを心からお祈りいたします。本当にありがとうございました。

# 新任教授からのご挨拶

## 「教授就任にあたって」

実務薬学講座（実務薬学教育研究）　平　野　　剛 教授

平成27年４月１日に神戸大学医学部附属病院薬剤部より、薬学部薬剤学講座（製剤学）教授に着任し、平成28年４月１日付、唯野貢司教授の後任として、実務薬学講座（実務薬学教育研究）教授を拝命いたしました。北医療薬の皆様に新任のご挨拶を申し上げます。

私は、平成２年に本学薬学部卒業後、大学院薬学研究科に進学し、薬剤学教室の髙田昌彦教授のご指導の下、「キノロン系抗菌剤の生体膜透過機構に関する研究―消化管吸収と腎排泄のメカニズム―」で博士（薬学）の学位を取得いたしました。平成８年には北海道大学医学部附属病院薬剤部（宮崎勝巳教授・薬剤部長）に入職し、調剤、医薬品情報管理、麻薬および治験薬管理などの薬剤師業務に従事いたしました。平成12年には北海道大学大学院薬学研究科・薬学部助手（臨床薬剤学分野：井関 健 教授）、平成17年には同講師となり、基礎から臨床を志向した研究テーマに幅広く取り組んできました。特に、生命の健やかな誕生を目的として、妊娠の進行に伴う胎盤の組織変化と生体必須物質透過性について種々検討し、カルニチンや葉酸などの胎盤輸送機構を解明いたしました。平成21年には、神戸大学医学部附属病院薬剤部・大学院医学研究科の准教授・副薬剤部長（平井 みどり教授・薬剤部長）として、医療薬学研究、病棟薬剤業務を積極的に展開するとともに、人事・業務に関するマネージメント、医療安全および薬剤師レジデント教育などに携わってまいりました。これらの大学病院および薬学部での経験を活かして、薬学教育モデル・コアカリキュラム、特に「Ｆ薬学臨床」の意義を十分に理解し、病院および薬局との緊密な連携を推進することで、母校の薬学・薬剤師教育に積極的に関与していきたいと存じます。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

医療薬学を学術基盤として、患者安全の確保、適正な医薬品の使用および薬物治療の提供、そして医療の進歩にも貢献しなければなりません。処方せんに基づく調剤を基本として、診療ガイドラインの理解と医薬品情報提供、薬歴管理や服薬指導による効果確認および副作用対策、薬物血中濃度モニタリングによる個別化投与設計や処方提案、チーム医療の推進やリバーストランスレーショナルリサーチへの支援と臨床試験の実施、在宅医療への関与などの多

様化している薬剤師業務を行うためには、常に自ら医療人としての成長が必須となります。実務実習にてご指導賜ります薬局・病院薬剤師の諸先生とともに学生を共育し、自らの気づきを多く経験することで自己研鑽を図ることが可能となります。「志を育てる」ことを念頭に、これまでに継続して行ってきた教育、すなわち医療人として生涯に渡り自らの意志で学習を続け、資質の向上を継続させること、「人間性の向上」を目標にしたいと考えます。リサーチマインドを忘れず学生とともに情熱を持って学び、「智恵」とも言い換えることができる「考える力」を養い、「患者から学ぶ」応用力を兼ね備えたPharmacist-Scientistとしての人財育成を目指していきたいと存じます。

医療行政の変化にも柔軟な対応を心掛け、「Work Hard, Play Hard」をモットーに、現状を冷静に分析し静かな心で燃えていきたいと考えております。今後とも相変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。最後になりましたが、北医療薬の皆様の益々のご発展とご健勝をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

## 支部だより（北越支部）

薬学部同窓会 北越支部 支部長　杉　本　雅　則 さん
富山支部　藤　川　　晃 さん

今回は北越支部で昨年開催されました、北海道医療大学薬学部、歯学部同窓会主催の多学部間合同セミナーについて報告いただきましたので以下に紹介させていただきます。

**【多学部間合同セミナー】**

平成27年９月26日・27日に富山県にて北海道医療大学薬学部、歯学部同窓会主催での多学部間合同セミナーが開催されましたのでご報告申し上げます。今回共通の課題を『ネタきりにならない、させないコツ』というタイトルとしました。講演に先立ち、まずは黒澤副学長より『本学において学部連携での学術事業が広がり始めている』というお話をいただきました。最初の講演は看護福祉学部の講師　川添恵子先生が高齢者の特徴をわかりやすく説明され、元気になられた症例などについてご紹介いただきました。続いて、本学歯学部卒業で現在、自治医科大学歯科口腔外科学講座准教授の野口只秀先生から、『当科における高齢者の口腔がん治療後の地域連携・包括ケアについて』という演題で、高齢者であっても以前ならあきらめてしまったような口腔がんの手術も積極的に行い、術後もすぐにベットサイドからリハビリを開始して口腔周辺の機能回復に努めることが現在は可能となり、そのためには他職種の方々と連携を図っていくことが大切であるという講演をいただきました。薬学部からは小田和明　創薬化学講座教授より、本学に赴任された40年以上にわたる研究生活の中で『歯学部麻酔科との共同研究』のお話や『グレープフルーツジュースと飲み合わせできない薬』について、化学構造から解り易く解説いただきました。また、先生が薬学部でゼロからの研究室立ち上げに参画された苦労話などもユーモアたっぷりに楽しくお話いただきました。さらに、『安い日本酒をうまくする方法』など普段聞けないお話を伺うことができたのは、やはり同窓会主催のセミナーならではのものでした。懇親会もランチョンセミナー形式で自由な題材を持ち寄り、学部間連携の学術セミナーを主催できた大変有意義な２日間でした。

# 卒業生からの近況報告

第30期　薬理学講座・薬理学　二　見　ゆきの さん

私は現在、扶桑薬品工業株式会社にてMRと管理薬剤師を兼任しております。大学院を経てからの入社になりますので、本年度より入社８年目になります。

弊社は透析に特化したメーカーで、透析患者さま、保存期腎患者さま向けの薬剤や周辺の後発品、そして古くから輸液製剤を取り扱いしています。

日々の仕事内容ですが、MRとしての業務として、担当先の病院・クリニックへの訪問、情報伝達を行っています。その他薬剤師として薬学的知識を活かした業務内容は本社安全管理統括部との支店窓口としての役割があります。具体的には副作用感染症調査、使用上の注意など添付文書改定時の管理を含むPMS関連業務です。その他に医療関係者からや支店各MRからのDI質問の窓口などを受け持っております。PMS・学術に関しては本社営業学術部、研究開発部とのミーティングも年に数回あります。本社の話を製薬会社サイドが意図していることと、現場の薬剤師達が求めるものの乖離を埋めることが出来るのも魅力です。

MRの仕事では、現場を訪れ医師、薬剤師からお話を聞くことや、また透析メーカーという特徴から人工透析室の臨床工学技士、看護師など様々な役職の方の生の声を聞き、様々な立場から患者さんへのアプローチの仕方や、製剤使用の問題点を抽出します。MR以外の仕事との兼任は大変な時もありますが、自分たちがその問題の解決に携わることが出来た際などはとてもやりがいを感じます。

またMR新人の１年目には認定試験がありますので、その教育担当もしています。様々な学部出身の新入社員、特に文系出身の学生などは薬理学などに抵抗があり、そういった新人に大学時代に学んだ覚え方などを教え、それが役に立ったと喜んで貰えたり、合格に少しでも結びついた時は喜びを感じます。

日々MR活動では外回りを中心に、様々な医療関係者と話す際にその方が望んでいるものはなんなのか、自分に何ができるかを考え行動します。基本的なことですが、必要とされている要望に迅速に対応すること、必ず約束を守ることを大事に、信頼関係を築くことを一番重要に考えております。

薬剤師の先生方にお会いする際、同期が自分の担当病院に勤務しており、活躍を聞くことも多いです。皆の頑張る様子が聞けて気合が入ります。伺った先で突然ばったり顔を合わせ少し気恥ずかしいこともありますが…。

学生時代は、研究職にも憧れがあり大学院に進学しましたが、自分の性格では精密な作業に慣れず、自分に向いていないのではないか…と将来に不安を感じておりました。その頃参加した学会でテキパキと働くMRを見たのがきっかけで興味をもつようになりました。色々な病院のスタッフと関われること、多くの人と接する仕事に興味を持ち始めていた私にはMR職こそ向いているのではないかと思うようになりました。扶桑薬品は薬剤師である場合MR以外の仕事も経験できるという点にも魅力を感じ就職を決めました。私は思い立ったら行動してしまうタイプですので、色々と遠回りをしてしまいましたが、今自分に合った会社に出会えて楽しく日々を過ごせていることに感謝しています。まだまだ至らないところばかりですが、今後も経験、知識を増やし、医療関係者の方々にも、支店員にとっても役に立てる存在になれるよう努力していきたいと思っております。

# 在学生からのメッセージ

薬学部薬学科　４年　谷　口　　栄 さん

薬学部４年の谷口栄です。今回は春休み中に私が参加したある病院のセミナーについてお話しさせていただこうと思います。そのセミナーを主催している東北の病院は９年前から病院独自で多職種連携教育を行っており、以前からそのセミナーのことを知人から聞いていたこともあり今回縁あって参加させていただけることになりました。

セミナーの内容は大きく分けて病院内の見学と多職種連携のシミュレーションの２つがありました。見学ではその病院の特徴のある部門を中心に実際の患者さんの様子を拝見したり、たくさん質問したりしながら見学することができました。その中でも特に印象的だったのが医師、認定看護師、理学療法士が中心となって慢性創傷の治療を専門とするチームを作り病棟をまわって褥瘡などを診ている部門の見学です。見学では多くの患者さんの回診に同行させていただいて普段気を付けていることや積極的に行っている治療法などを教えていただきました。このような形で慢性創傷を診ている例は全国的にも少ないということで、貴重な体験をすることができました。私はこれまで褥瘡などの慢性創傷を直接見たことがなかったので鮮明に記憶に残りました。そのチームでは実際に薬剤師さんが回診で患者さんと触れ合う機会は少ないそうですが、患者さんに合った薬剤の選択をするうえで欠かせない存在だと伺い、薬剤師が薬の専門家としてチームに貢献しているということを知ることができました。

多職種連携のシミュレーションでは、医学生、看護学生とともにチームを作って実際に救急外来に来られた患者さんの初期の対応から病棟にあげるまでの計画立案などを体験しました。自分の専門領域である薬学の知識がかなり不足していて上級生の先輩に迷惑をたくさんかけてしまいましたが、自分なりにその患者さんのためにどのようなことが必要なのか、いろいろなことを考える良い機会となりました。たくさん悩んだ分さまざまな視点をもつことができ、さらに他の参加者との仲も深めることもできてかけがえのない経験をすることができました。

私はこのセミナーで初めて具体的に多職種連携に触れ、多くの刺激を受けました。４年次での臨床的な科目を学ぶ前に参加したこともあってか、自分が勉強していることが現場でどのように生きてくるのかを身をもって体験できたことが強く印象に残りました。これらの経験を活かして自分の目指す薬剤師像に近づいていけたらと感じました。

最後になりますが、北海道医療大学薬学部同窓会がますます繁栄することを願いまして、在学生の挨拶とさせていただきます。

# 第63回　北海道薬学大会で本学同窓生３名が同時受賞

日本薬学会北海道支部第143回例会において同窓生３名が医療薬学貢献賞並びに日本薬学会北海道支部奨励賞を受賞しました。以下に表彰演題および各先生のコメントをご紹介いたします。

**【医療薬学貢献賞受賞】**

実務部門

『実務実習におけるWebシステムの構築』

北海道医療大学薬学部 中山 章先生（15期）

『地域保険薬局薬剤師の視点からの患者・来局者のためのエビデンス構築』

十仁薬局 野田 敏宏先生（11期）

**【日本薬学会北海道支部奨励賞受賞】**

『CYPを阻害するフラノクマリン、ベンゾフランおよびクマリン誘導体の合成とCYP阻害メカニズムの解明』

北海道医療大学薬学部 山口 由基 先生（24期）

**中山 章先生からのコメント**

この度、日本薬学会北海道支部医療薬学貢献賞（教

育分野）を授賞いたしました。日頃より、実務実習にご協力頂いている同窓会の皆様に心からお礼申し上げます。今後もこの賞を励みとし、実務実習が円滑に実施できるよう、微力を尽くして参りたいと思っております。

**野田 敏宏先生からのコメント**

この度、名誉ある賞にご推薦を頂きました齊藤浩司教授ならびに和田啓爾薬学部長に感謝申し上げます。

今回の受賞は旭川市内の小さな薬局で20年余にわたり行ってきた、大学薬学部ならびに大学病院などのアカデミアと連携した研究発表を評価いただいたと感じています。受賞講演では、保険薬局で調査・研究を行う重要性とこれからの可能性についてお伝えし、後輩教員や学生に、「研究は患者のため！現場に行ってみよう！」と訴えました。

**山口 由基先生からのコメント**

私はCYPの活性を制御する物質の探索合成研究を続けており、現在では主に禁煙補助薬（CYP2A6阻害剤）や乳がん治療薬（CYP19、アロマターゼ阻害剤）の開発を行っています。今回は、「CYPを阻害するフラノクマリン、ベンゾフランおよびクマリン誘導体の合成とCYP阻害メカニズムの解明」のテーマで、日本薬学会北海道支部奨励賞を頂くことができました。この様な賞を頂きましたことを励みに、さらに研究を続けて行きたいと考えております。

左から野田先生、山口先生、中山先生

# 2016年度オープンキャンパスのご案内

## 今年度も北海道医療大学オープンキャンパスが開催されます。

**日 時**

**６月19日（日）・８月５日（金）・８月６日（土）・９月24日（土）**

※いずれの日程も11：00～16：00まで

**内 容**

**●大学概要説明**

2016年度入試結果及び2017年度入試概要について説明を行います。

**●学内施設見学**

興味のある学部・学科に分かれて施設見学を行います。

**●体験実習または模擬講義**

興味のある学部・学科に分かれて行います。

**●保護者ガイダンス**

**●個別進学相談**

※ランチ付き
JR札幌駅より無料送迎バス運行

**オープンキャンパスに関するお問い合わせは入試広報課まで**

**E-mail：nyushi@hoku-iryo-u.ac.jp**

# 第８期生卒業30周年記念祝賀会

## 「卒業後30周年同窓会を振り返って」

第８期　中　村　次　也さん

昨年７月19日京王プラザ札幌において遠くは沖縄からの参加で総勢81名、こちらで無事、同窓会を開催することが出来ました。

実はこちらの話が持ちかかってきたのは2014年の秋でした。同期の武裕君から連絡が入り、７期生の卒後30周年同窓会が終了した後、先輩から彼のもとに１通の封筒が…中には１万円のみが入っていたとのことでした。聞くところによるとこの現金は代々、各期の幹事に渡ってはまた次回の幹事の手に渡るという何とも不思議な玉手箱でした。とはいうものの、このバトンが廻って来た以上、行動に移さなければとの思いで日程と会場の検討に入りました。幹事は武君を代表として私、中村と同じく同期の高舘修君とで彼のサポート役として進行することとなりました。それにしても卒業後30年も経っていることもあり、全く連絡の取れていない人も数多く、まずは名簿作りからの作業となりました。同窓会にもご協力を頂き、現住所が判明している方々で名簿作成を、また住所が不明である方には身近に連絡のとれそうな方を頼りに、電話（メール）連絡のやりとりを日々続けて参りました。同窓会開催の案内は約半年前に予告として一度葉書を送り、準備万端整えたところで案内状を配布しました。その甲斐あって名簿人数146名中なんと81名の参加でこの同窓会を開催出来ることとなりました。この同窓会は歴代恩師を呼ぶことのない、同期生のみの会と聞いていたため、さて当日の進行（余興）等、実際に何をすれば良いか頭を悩ますことが続きました。また当日の受付時、名前と顔がすぐ一致するのかも結構、不安材料でした。30年という歳月は自らも勿論のことですが、改めて大学の環境が大きく変わっていることに今一度驚かされました。

当時は薬学部・歯学部そして歯科衛生士専門学校の２学部・１学校であった校舎が今や５学部・１学校と名実ともに医療系総合大学として進化したこの当別キャンパスの紹介をスライド（動画）で行うことを目標に、６月の九十九祭にめがけ、取材を試みました。

普段はなかなか訪れることのない母校ですが、特に薬学部は外装こそ変わったものの各階・各教室の雰囲気は当時のまま！の印象で心が和みました。

さて同窓会当日がやってきて私達は早めの会場入りをし、機材のセッティングを行っていると、まだ結構早い時間から受付に何人かの同期生がやってきました。

不思議なことにその瞬間、当時の時間に戻った気がして、30年分のブランクなんて直ぐ吹き飛んでしまいました。

余興は現大学の紹介とテーブルスピーチとして各テーブルで代表一人と企画しておりましたが、即興で一人ずつの現況報告に急きょ変わって・・・結果、長い余興とはなりましたが皆さんの現況がしっかり聞けてとても身近なものになり結果、良かったのではないかと思います。

その後、同会場・同席にて二次会（一次会の延長？）も行い、大切な一日として想い出に刻み込むことが出来ました。

ご参加の皆様、改めてありがとうございました。

## 北海道医療大学　同窓会☆コラボ講演会 第９弾について

平成28年３月12日（土）に北海道医療大学 同窓会☆コラボ講演会 第９弾が開催されました。講演の第一部では、本学リハビリテーション科学部講師 澤田 篤史先生に「運動と栄養はベストパートナー！～健康のための運動と栄養の組み合わせ～」と題し、運動と栄養のバランスを中心にご講演いただきました。第二部では、医療法人渓仁会 手稲渓仁会病院 小児歯科主任医長 及川 透 先生に「急性期病院における歯科の役割～チーム医療への参加～」と題し、各種疾患における口腔ケアの重要性や実践的な手技についてご講演いただきました。各先生とも活発な質疑応答が行われ、大変勉強になる時間でした。

今回の参加者は約170名で、一般参加の方や、薬剤師、歯科医師、歯科衛生士、看護師、言語聴覚士、栄養士など様々な職種の方にご来場いただきました。

本講演会は、「口から食べられる理想に向かって」をテーマに、本学の生涯学習事業の一講座として毎年開催されてきました。企画運営は、これまで歯学部・歯科衛生士専門学校・言語聴覚療法学科・看護学科・福祉学科の各同窓会が合同で行っており、平成27年度より北医療薬もこれに参画いたしました。次回は、平成29年３月に開催を予定しております。多数のご参加をお待ちしております（北海道医療大学 同窓会コラボ講演会ホームページ http://hokuiryoudaidousou.jimdo.com/）。

# 第37回 北医療薬 総会および懇親会のご案内
## (医療薬学セミナーのご案内)

日　時：平成28年７月９日（土）

【北医療薬　総会】　15時30分

【札幌支部　総会】　16時30分（札幌支部会員）

【医療薬学セミナー】17時00分

北海道医療大学　客員教授

株式会社 クリオネ　顧問　唯野 貢司 先生

「薬剤師に求められる生涯学習と地域活動」

＊札幌支部主催ですが、どなたでもご参加いただけます。

＊北海道医療大学薬剤師支援センター認定研修（１単位）です。

【懇親会】18時30分（セミナー終了後）

会　費：3,000円（当日申し受けます）

会　場：ホテルKKR札幌

札幌市中央区北４条西５丁目　TEL（011）231-6711

＊出欠席のご回答は、同窓会ホームページ（北海道医療大学 → 薬学部 → 同窓会）で６月30日までにお知らせください。

同窓会ホームページ：http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~phalumni/

※はがきでの受付は行いません。

お問い合せ：dosoyaku@hoku-iryo-u.ac.jp

## 編集後記

本学には2016年４月現在、薬学部、歯学部、看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部の５学部に加え大学院、歯科衛生士専門学校から成り、在籍学生数は3,600名を超えています。卒業生のみなさん！校舎も学生数も大きくなった母校に是非いらしてみてはいかがでしょう。　(S.K.)